総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要（令和元年度）

２．分野別状況（２）地域活性化総合特区 ⑤農林水産業分野 （７／７）

	総合評価（ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算）	Ⅰ 目標に向けた取組の進捗	Ⅱ 支援措置の活用と地域独自の取組の状況	Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	総合評価に係る専門家所見（主なもの）
たたらの里山再生特区（雲南市）	3.1	3.1 進捗度 ・人口の社会動態 ▲26% ・まちづくり活動に参画する市民の割合 96% ・市民参加型林地残材搬出量 66% ・コミュニティビジネス売上高 77%	2.8 規制の特例等 ・当該保安林の指定施業要件に係る伐採の特例措置 ・農地取得に係る下限面積要件の緩和 地域独自の取組 ・森林バイオマスエネルギー事業運営業務委託 ・地域づくり活動等交付金	3.3	・関係人口の増加、スーパーコミュニティ法人の育成という方向は間違っていない。半農半X的な就業を創り出し、移住者を増やしていくことを期待。 ・「スーパーコミュニティ法人」を提唱し、「小規模多機能自治推進ネットワーク会議」設立・発展に貢献した当該特区の意義は大きいが、その成果を適切にアピールする指標となっていないことが残念。 ・地域自主組織が収益事業より公益性の高い事業にプライオリティがあるというのは当然のことで、コロナ禍の下で交流人口が減少せざるを得ない状況下では、むしろこの軸足が組織の持続性を担保することになるのではと思う。 ・評価指標（1）「人口の社会動態」は、目標値と実績値の乖離は大きくなっているが、社会減の実績値だけみると改善傾向にある。近年の過疎地域の社会増減の動向は地域によるバラツキが大きいことも指摘されており、他の地区との比較分析なども必要。人口の社会増を成果指標にすることの困難については前回も指摘した通り、サブ指標の格上げを行ってはどうか。 ・評価指標（2）「まちづくり活動に参画する市民の割合」も、特区としての取り組み成果を適切に反映するものではないと思われる。 ・市民参加型林地残材の取組は，優れた取組ではあるが，簡単に搬出可能なところから始まっているので，運び込まれる量は年々減っているという、自然な傾向以上に増えなかったのは残念。実績値、進捗度とも減少傾向が明瞭になってきており、より深い分析が必要。 ・特定保安林制度の活用を期待。